

伊予銀行

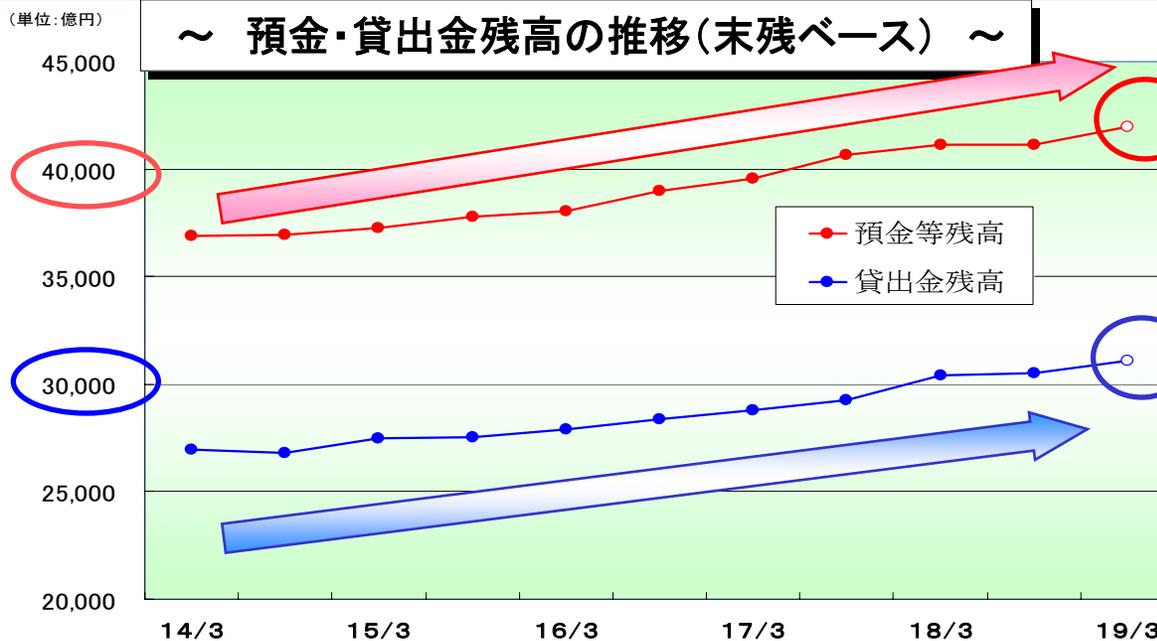
平成18年度決算状況

飯尾小児科

いよぎん
ローンプラザ松山

預金・貸出金残高の状況

- おかげさまで預金・貸出金の残高はともに10年連続の増加となりました
- 預金は前年比+830億円、貸出金は前年比+657億円の増加



預金
830億円増加

預金、貸出金とも
残高四国NO. 1

貸出金
657億円増加

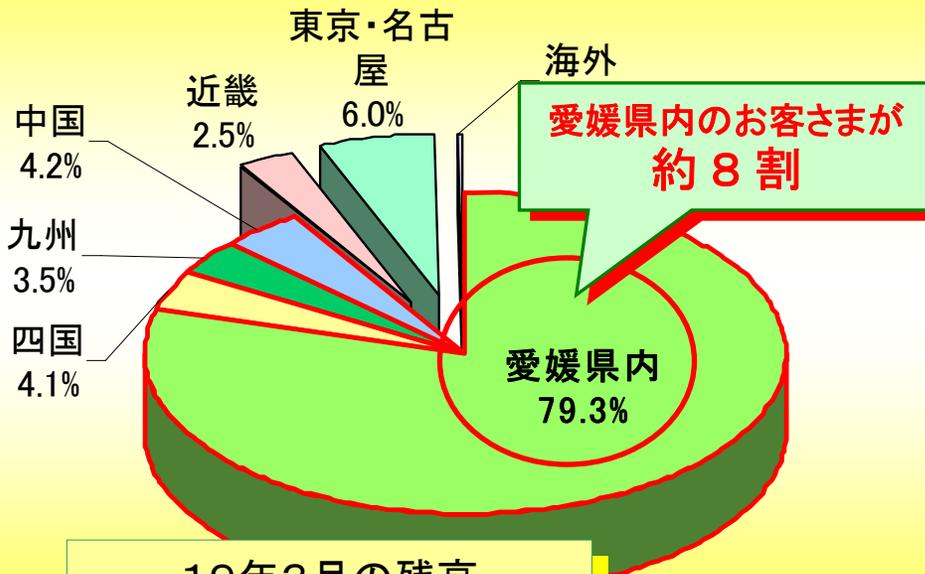
<預金・貸出金残高推移(末残ベース単体)> (億円)

| | 19/3 | | |
|--------|--------|-------|--------|
| | | 前年度比 | 増加率 |
| 預金等残高 | 41,984 | + 830 | + 2.0% |
| うち個人預金 | 27,581 | + 913 | + 3.4% |
| 貸出金残高 | 31,078 | + 657 | + 2.2% |
| うち個人融資 | 8,130 | + 359 | + 4.6% |

預金の状況

- 愛媛県内のお客さまの預金が約8割を占めております
- おかげさまで、愛媛県内のシェアは5割を超えております

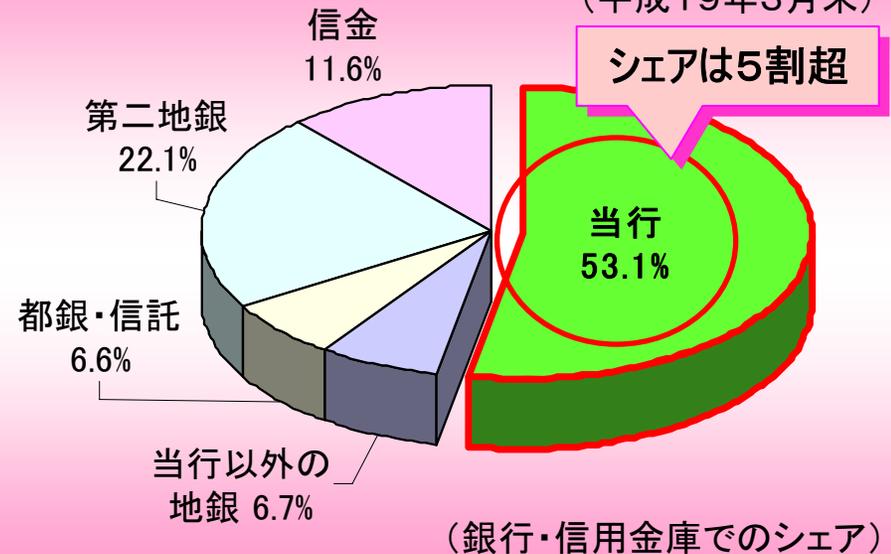
< 預金等残高 地域別構成比率 >



19年3月の残高
4兆1,984億円
(前年比 **830億円増加**)

< 愛媛県内シェア >

(平成19年3月末)

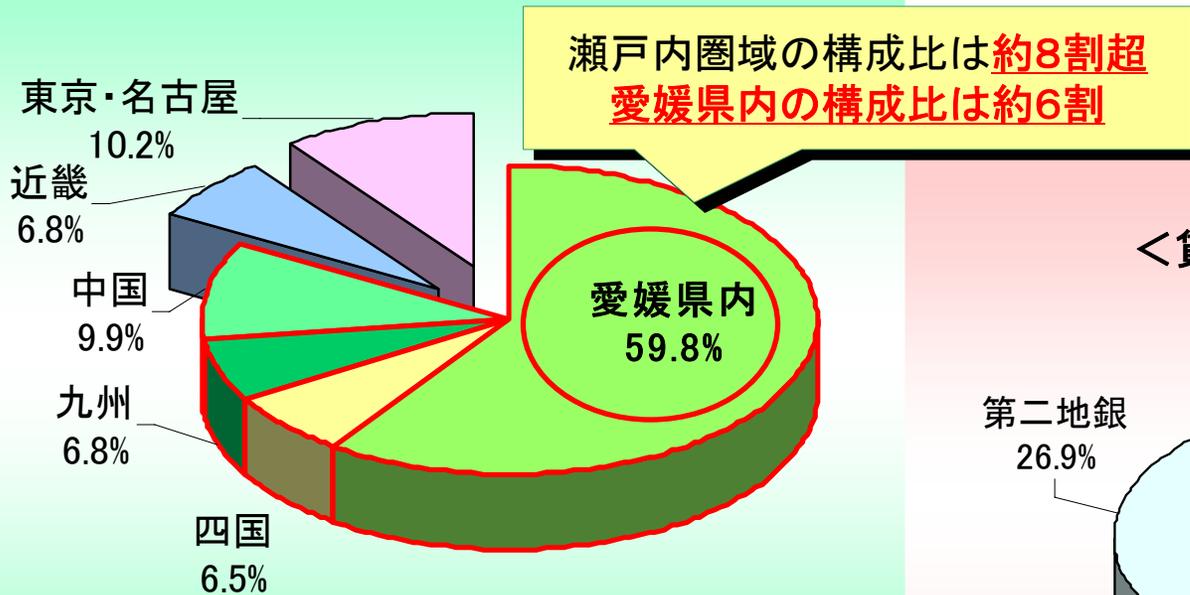


預金は皆さまからいただく「ご信頼のバロメーター」と考えております
引き続きご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます

貸出金の状況

- 愛媛県を中心に瀬戸内圏域のお客さまに広くご利用いただいております
 (約6割が愛媛県内、約8割超が瀬戸内圏域のお客さま)

< 貸出金残高 地域別構成比率 >

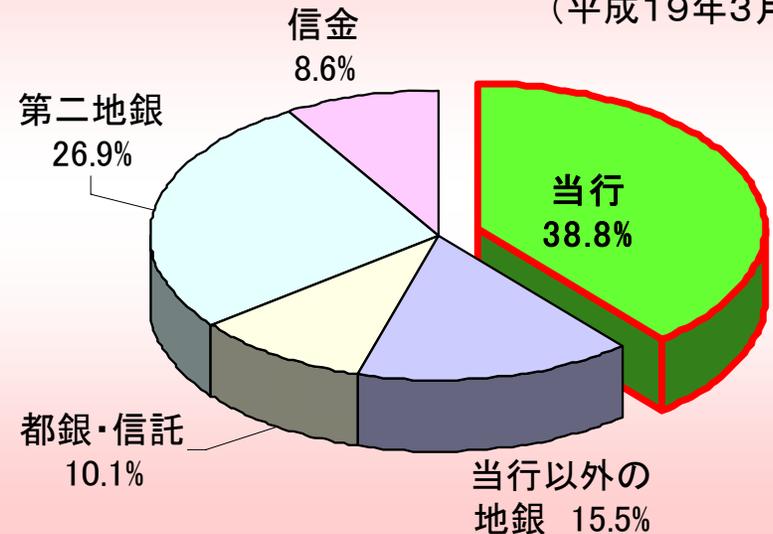


19年3月の残高
 3兆1,078億円
 (前年比 657億円増加)

シェアは約4割

< 貸出金 愛媛県内シェア >

(平成19年3月末)

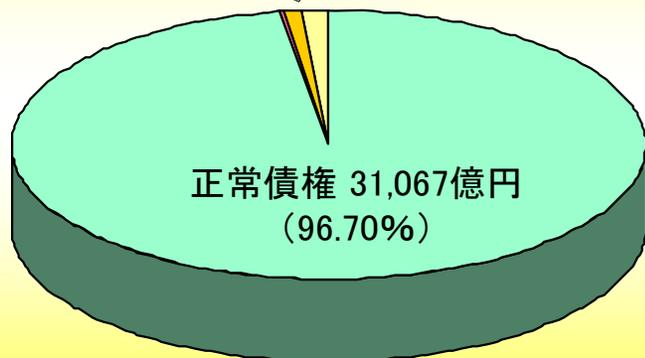


開示不良債権・信用コストの状況

- 健全性の目安となる開示不良債権比率は、**3.29%**と引き続き低い水準を維持しています(地銀平均4.2%)
- 貸出金等に対する一層厳格な自己査定実施により、引当・償却等の信用コストが増加しました

＜金融再生法開示債権の状況＞

開示不良債権 1,058億円
(不良債権比率3.29%) (平成19年3月末)



＜開示不良債権に対する保全率＞

保全率 80.89%



開示不良債権残高1,058億円

＜信用コストの推移＞ 単位;億円

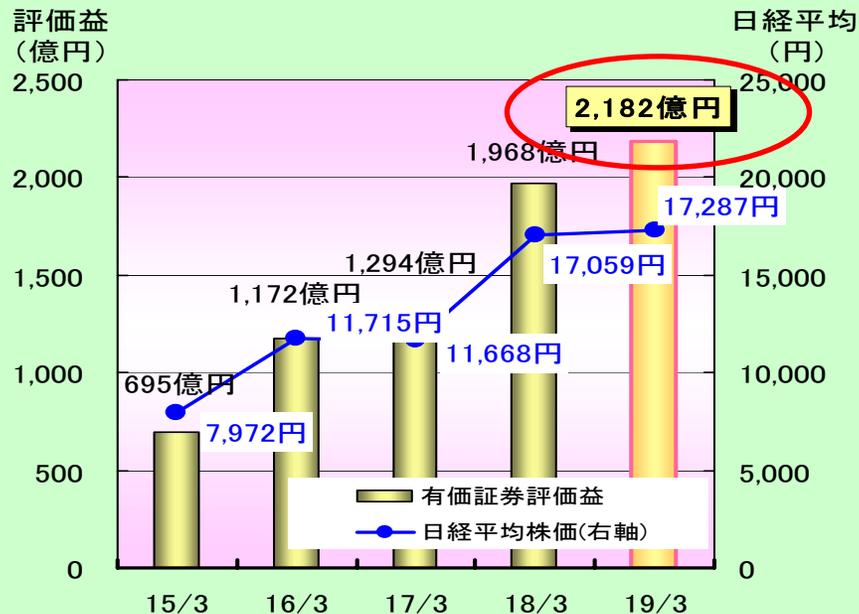


※信用コストとは … 貸出の引当・償却等、不良債権処理に伴い発生する損失です
(一般貸倒引当金 + 不良債権処理額)

有価証券評価益および自己資本比率の状況

● 有価証券評価益・自己資本比率ともに高水準を維持しております

(日経平均株価) <有価証券評価益の推移>

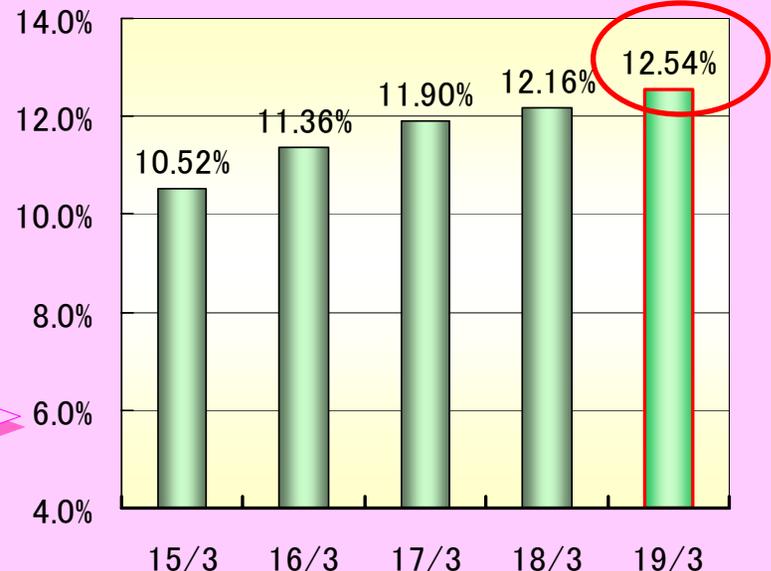


中四国・九州地銀トップの含み益

国際基準の8%を十分にクリア

地銀トップクラス

<自己資本比率(連結)の推移>



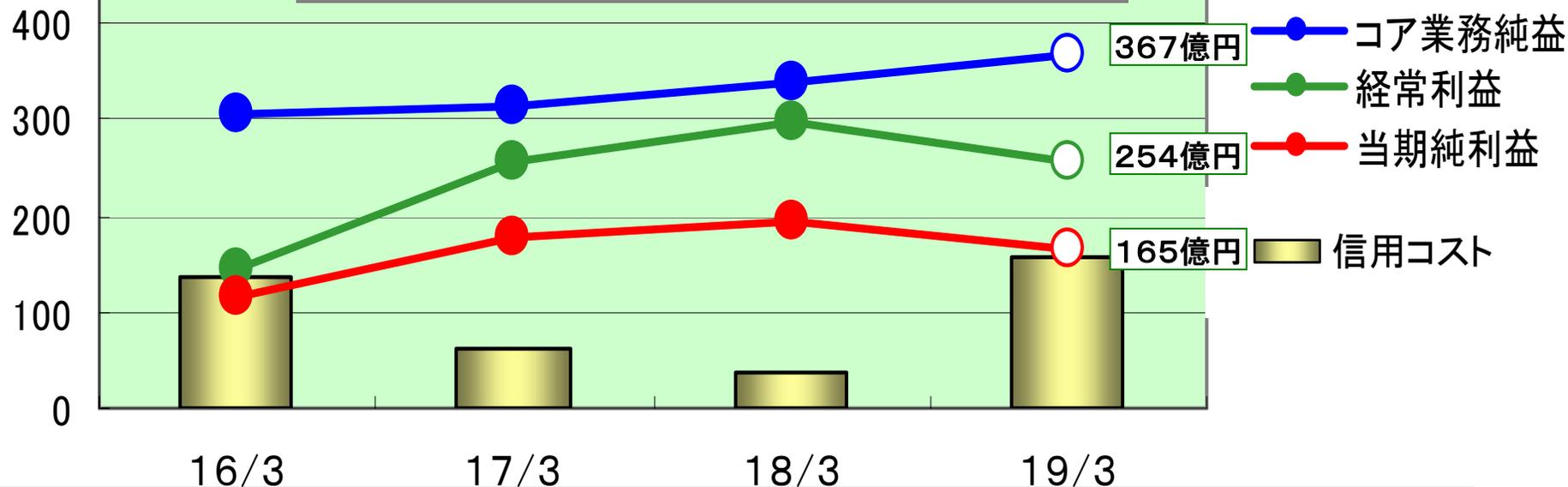
高い健全性が評価され、R&Iによる外部格付「AA-」を取得しております

利益の推移

- コア業務純益は5年連続で**過去最高益**を更新しました
- 貸出金等に対する一層厳格な自己査定実施により信用コストが増加したため、経常利益・当期純利益は減益となりました

(単位: 億円)

<3年間の利益と信用コストの推移>



配当の推移

16/3期
5.0円

17/3期
6.0円

18/3期
7.0円

19/3期
7.5円

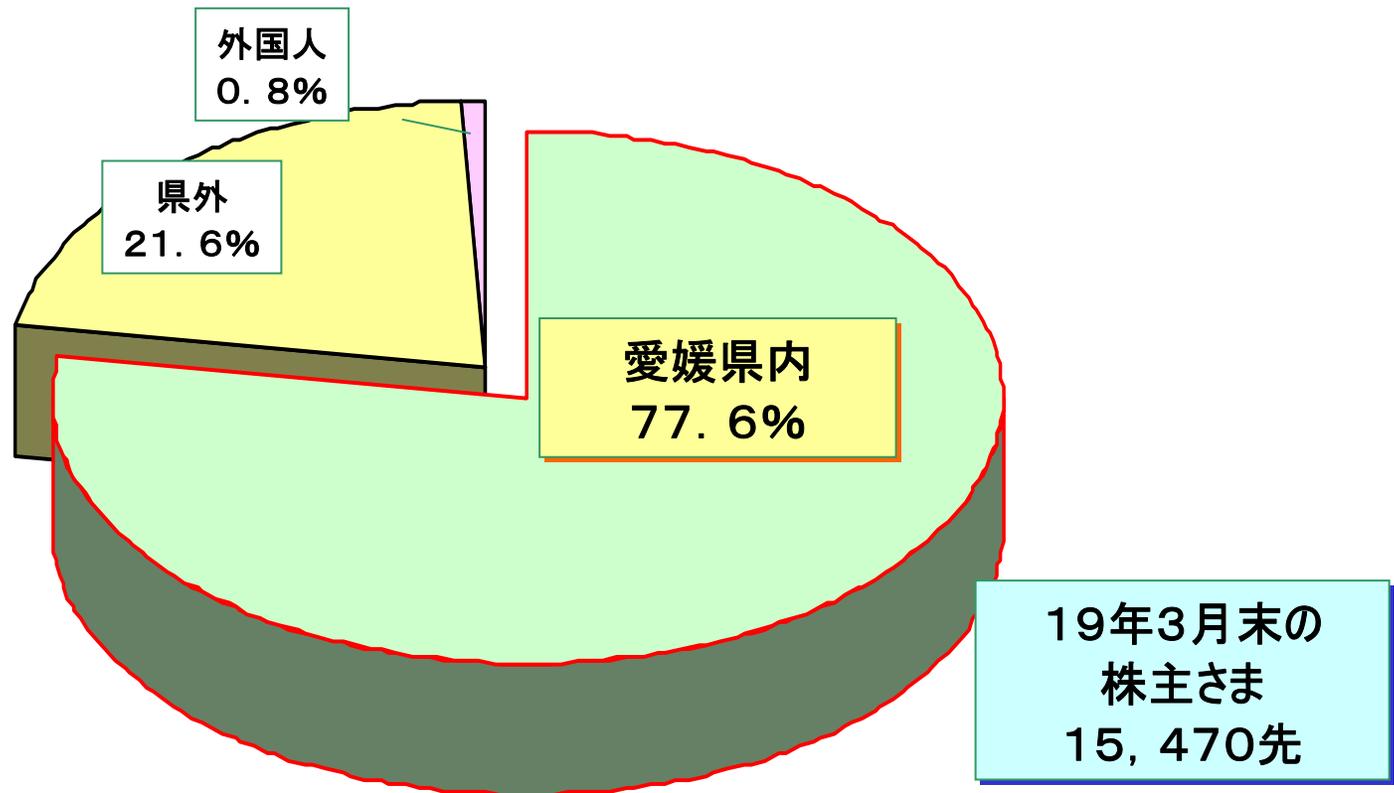
20/3期
8.0円(予定)

- ◇ 過去最高益を受けて、増配いたしました
- ◇ さらに20/3期は記念配当を実施する予定です

株主の状況

- 約8割が愛媛県内の株主さまです

< 地域別構成比率 >



当行株価の推移

● 当行株価は、堅調に推移しております

(日経平均:円)

(当行株価:円)

